

# 行政視察報告書

参加議員	議会だより編集会議 会長 渡部伸広 副会長 里村誠悦 委員 小熊ひと美 木下靖 柿崎孝治 大矢保 天内慎也
調査期間	令和6年7月11日(木)
調査先及び 調査事項	福岡県久留米市 「市議会だよりについて」

## 視察概要

■	調査先	福岡県久留米市																														
■	調査事項	市議会だよりについて																														
■	調査内容	<p>1 調査日 令和6年7月11日(木)</p> <p>2 調査目的            本年4月に開催された中核市議会議長会「第19回議会報コンクール」で、久留米市が最優秀賞を受賞しており、本市議会だよりの紙面づくりの参考とするため、調査に伺った。</p> <p>3 対応者</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 35%;">久留米市議会広報委員会</td> <td style="width: 20%;">委員長職務代理者</td> <td style="width: 15%;">堀 太一郎</td> <td style="width: 30%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>委員</td> <td>吉武 憲治</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>生野 薫</td> <td></td> </tr> <tr> <td>久留米市議会事務局</td> <td>次長</td> <td>千代田 成樹</td> <td></td> </tr> <tr> <td>久留米市議会事務局総務課</td> <td>課長補佐</td> <td>中島 千浩</td> <td></td> </tr> <tr> <td>久留米市議会事務局総務課</td> <td>主任主事</td> <td>上野 泰平</td> <td></td> </tr> <tr> <td>久留米市議会事務局議事調査課</td> <td>課長補佐</td> <td>向井 明博</td> <td></td> </tr> </table> <p>4 調査事項の説明</p> <p>(1) 市議会だよりについて</p> <p>① 広報紙制作の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市議会だよりを発行するに当たり、開会前に担当者、業者とスケジュールや紙面構成案、特集ラフ案、表紙テーマ案について協議を行う。次に、会期中に1回目の議会広報委員会を開催し、紙面構成案等の確認、意見聴取、協議を行うほか、一般質問の掲載項目の決定を行う。次に、閉会后、2回目の議会広報委員会において、掲載内容、表紙写真を決定した後、会派持ち帰りで最終稿の確認を行い、修正等なければ、印刷・発行作業を行う。</li> </ul> <p>※一般質問の掲載記事は、議員に掲載する質問を1つ選んでもらった上で掲載している。</p>			久留米市議会広報委員会	委員長職務代理者	堀 太一郎			委員	吉武 憲治				生野 薫		久留米市議会事務局	次長	千代田 成樹		久留米市議会事務局総務課	課長補佐	中島 千浩		久留米市議会事務局総務課	主任主事	上野 泰平		久留米市議会事務局議事調査課	課長補佐	向井 明博	
久留米市議会広報委員会	委員長職務代理者	堀 太一郎																														
	委員	吉武 憲治																														
		生野 薫																														
久留米市議会事務局	次長	千代田 成樹																														
久留米市議会事務局総務課	課長補佐	中島 千浩																														
久留米市議会事務局総務課	主任主事	上野 泰平																														
久留米市議会事務局議事調査課	課長補佐	向井 明博																														

## ②リニューアルした背景

- ・文字ばかりで読んでもらえていない、写真やイラストが少ない、堅苦しくて何を書いているか分からないなどの意見等があったことからリニューアルを行った。

## ③広報紙の特色

- ・令和2年から企画編集業務を民間事業者へ委託しており、民間事業者が特集、漫画の作成、全体のレイアウト作成を担っている。
- ・特集や漫画については、ふざけてるのかと言われるくらいでいい。まずは興味を持って、手に取ってもらえるものにするという視点で制作している。
- ・議員とは固い人、遠い存在といったイメージを持ちがちだが、広報紙には議員の様々な表情の写真を使い、議員本人の人となりが伝わるようなものとしている。
- ・市議会のことを分かりやすく伝えていくことをコンセプトとしている。

## ④制作するに当たって特に注意している点

- ・雑誌のように手に取りたくなるようなデザインや読みやすい文章とし、できるだけ文字数を少なくしている。
- ・余白をつくる。
- ・文字を読みやすくするために、図表などのデザインは過剰なものにならないようにする。
- ・難しい単語には注釈をつける、分かりやすい言葉に置き換えるなど、とにかく市民に優しく（易しく）、読みやすいものとする。

## ⑤今後の課題

- ・企画編集業務を担う事業者において、企画・取材・原稿の執筆・編集制作・写真撮影を行う委託業務であるが、現状は、多くが事務局主導となっている。
- ・表紙のテーマを何にするか、また、撮影と発行の時期に1か月ほどズレがあるため、イベントや季節感のある写真を撮りたいと思うが難しい。
- ・「なあぜ なあぜ 学生さん」という、市内の市立・県立高校生と議員との雑談の内容を記事にする際、様々な話をされていて面白い反面、掲載する記事のスペースが小さいため、うまくまとめるのが難しい。
- ・広報紙のデジタル化のタイミング。

## 5 体裁と紙面構成等

- ・全ページカラーで、基本12ページでの構成。
- ・発行回数は年4回（6・9・12・2月）。
- ・発行部数は各月約110,000部。
- ・配布先は市内全世帯のほか、公共施設、市立高校等。
- ・表紙は市民や久留米の旬などとし、少しでも興味を持ってもらえるように、また、特集については、市民に、議会や議員についての理解を深めてもらえるような内容としている。
- ・令和5年12月発刊号からの「なあぜ なあぜ 学生さん」という、市内の市立・県立高校生と議員が雑談をする企画を開始。議員が高校生へ質問を行い、雑談の中から広報紙に掲載する記事を拾い上げる。
- ・漫画の作成に当たり、テーマは特集に合わせたものとし、事務局において資料収集や台本の執筆を行う。それに基づき、企画編集業務を担う業者の下請けの漫画家が下書きを行い、その後、議会広報委員の意見を反映させ、漫画が完成。

・主な経費（令和6年度予算）

#### 企画編集業務

委託料 308 万円、印刷費 570 万円、送達業務委託料 245 万円、編集用 PC・ソフト使用料 24 万 6000 円、計 1147 万 6000 円。

## 6 質疑応答

問： 紙面の作成に当たり、ターゲットとしている読者層はあるか。

答： 特集を選定する際、テーマを子どもに絞ったり、高齢者に絞ったりと、いろいろな人に読んでもらうことを想定しているものと認識している。また、若い人の政治参加が一つの課題になっているため、写真を多用したり、文字を少なくしたり、高校生に出演してもらうなどして、若い人でも読みやすいものになっていると考えている。

問： 若い世代の投票率はどれくらいか。

答： 10代・20代の若い世代の投票率については20%台、前回の市議選でも全体の投票率が40%台であり、若い世代だけではなく、全体的に関心が低くなってしまっているという状況。投票率の向上も広報紙の目標としてあるものの、なかなか数字につながっていかないのが大きな課題の一つとなっている。

問： 議員の中でユーチューバーの方はいるか。

答： 人によってはチャンネルを持っている人もいたりするが、ユーチューブで情報を積極的に発信しているような人はいない。

問： 市議会だよりに対する市民の反応は、こういった形で寄せられる場合が多いか。

答： 支援者を伺った際など、直接、意見を頂く。

問： 市民から、議会事務局に市議会だよりに対する意見・要望はあるか。

答： 事務局には、ほとんど来ない。どのくらいの人が市議会だよりを読んで、どう思っているのかを把握するのが今後の大きな課題と思っている。

問： 久留米市議会では、議会報告会のようなものは開催しているか。

答： 開催していない。

問： 議会に対してのアンケートのようなものは実施しているか。

答： 実施していない。

問： 「なあぜ なあぜ 学生さん」の取材は、対象の高校へ出向いて行っているものか。

答： 事務局と相談の上、広報委員会において対象となる高校とコンタクトを取って、話し合いを行っている。

問： 特集は市民に市議会のことを知ってもらうための内容となっているが、これを続けていくと、同様の内容の特集を掲載せざるを得ないと思うが、この点について何か考えはあるか。

答： 広報委員は2年ごとに替わる上に、各々、36人が違う考えを持つ議員であるため、

その時々で新しい考え方・発想が入ってくる。特集を考えるに当たって、いろいろな新しい意見が出るため、どれに決定するかというところでは難しい問題ではあるが、アイデアとしては、たくさんのもがあると考えている。

問： 編集コンセプトである「『ふざけてるのか?』と言われる位で丁度良い」ということについて、具体的に何か事例などはあるか。

答： 改選特別号において、議員にはいろいろなポーズをとってもらっており、かなり斬新に写っていると思う。実は市長が、これくらい大胆にやらないと市民にアピールできないということを悔し紛れに事務局に言ってくる。やはり、議会というと市民にとって遠い存在であり、こちら側から歩み寄っていくために、市民がどう見たいか、どうしたら感心を持ってくれるかということを中心に考えると、従来のものよりもかなり大胆なものにならざるを得ないと考えている。もちろん、真剣な部分も出すが、その一方で、議員の人間的なところを表現できればと考えている。

問： 紙の廃止を検討しているとのことだが、高齢の方や SNS をやっていない方には、少しハードルが高いと思うが、その点については、どういった検討をしているのか。

答： 紙の廃止については、課題としてはあろうかというところだが、委員会の中で正式に意見が出ているものではないと記憶している。しかし、デジタル化の波というのは押し寄せてきており、久留米市においても市民への情報発信はLINEを使って行うという方向にあったり、月2回の発刊であった市の広報紙は月1回になったりしている。市議会だよりはシルバー人材センターから自治会へ届けた後、各自治会の組長などが住民へ配布しており、そういった人たちの協力の上で成り立っているのも、もし、デジタル化を進めていく際には、もろ手を挙げて喜ぶ方もいると思うが、一方で、高齢者の方には届きにくいという側面があるため、そこに関しては委員会の中でもしっかりと議論する必要があると考えている。

問： 写真は全て業者が撮っているのか。

答： 特集については、基本的には業者のカメラマンが撮るが、特集によっては事務局が撮ることもある。表紙の写真については業者が用意するカメラマンに撮ってもらっている。

テーマの選定は委員で決めて、そのテーマにのっとして適当な被写体、ロケ地を事務局で用意し、業者と一緒に撮っていくということになっている。これについては、やはりインパクトのある写真ということで業者へリクエストを出しているが、まだまだ記念写真の域を出ていないというふうに思っており、それこそ常識を超えたような、できればアーティスティックな写真を掲載したいと思っている。

問： 委員会は4委員会同時開催か。

答： 2つずつ開催している。

問： 常任委員会をユーチューブにおいて録画配信しているとのことだが、撮影はどのように行っているのか。

答： 委員会室内にカメラが設置されており、事務局がパソコンで発言者を指名すると、その者にカメラが向くことになっている。

問： ユーチューブは費用がかからないのか。

答： アップロードだけであればかからない。一般質問等はインターネット上で公開しているが、委員会をユーチューブにアップするときは、議会運営委員会などでたくさんの議論があり、導入までには時間がかかった。

問： 広報紙の横書きはいつ頃からか。また、横書きに対する市民からの声などはあるか。

答： 令和2年のリニューアルの際に横書きにした。声としてあるのが、市の広報紙が縦書きであるため、開き方が逆となり、市民の中に、広報紙を保存している方がおり、ごくたまに、なぜそろえないのか、保存しにくいとの声はあるが、横書きそのものに対する、読みにくいなどのマイナスの評価は聞いたことがない。

問： 市の広報紙は月に2回から1回に変わり、ページ数は変わったのか。

答： 市の広報紙は号によってページ数が変わり、大体20ページから24ページ程度である。

問： 個人質問の記事は議員が作っているのか。

答： 通告の際に、広報紙に載せる質問を2つ選んでもらい、質問終了後に、質問の内容・分野のバランスを考えながら、各々質問を1つに絞っている。文章については、一般質問の場合、1人40分ほどあり、それを限られたスペースにまとめるには、相当編集が必要なことから、事務局において作業している。なお、紙面がある程度固まれば、広報委員会で内容について諮るので、そこで内容についてチェックしている。

問： 個人質問は全員分が掲載されるのか。

答： 全員分が掲載されればいいのだが、そうではない。特に、会派に属さない議員が1名ないし2名いるが、その方については、例えば交互に掲載するなど、公平性を担保している。

問： 会派に所属している人は全員掲載されるのか。

答： 会派に所属している人は掲載される。ただ、申し合わせのような形で、例えば会派が6人いたら、6人全員が質問するということには今のところなっていない。